

# 英語コーパス学会 Newsletter No. 32

March 15, 2001

■会長：齊藤 俊雄  
■事務局：〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 中村純作研究室  
■TEL：088-656-7129 ■郵便振替口座：00940-5-250586 (英語コーパス学会)  
■URL：http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html ■E-mail：jun@ias.tokushima-u.ac.jp

**JAECS**  
Japan Association for English Corpus Studies

## 1. 第17回大会のご案内

英語コーパス学会第17回大会は、4月21日(土)に帝塚山大学短期大学部(〒631-8585 奈良市学園南3丁目1-3 0742-41-4716。近鉄奈良線「学園前」駅南口より徒歩5分。詳細は<http://www.tandai.tezuka-yama-u.ac.jp>を参照、「事務局より」の欄に簡単なアクセスマップと宿泊情報)で開催されるはこびとなりました。会場校のご好意と和田弘名、梅咲敦子大会準備委員のご尽力に感謝いたします。

大会プログラムとレジメを同封いたしますが、今大会では研究発表1セッションとシンポジウムを準備しました。研究発表には竹内典彦さん(筑波大学大学院)の「ホワイトハウスの記者会見に見られる語彙の特徴：高校現場の視点で」、深谷輝彦先生(椋山女学園大学)による「視点再起代名詞構文の意味：談話、連語、言語使用域からのアプローチ」、Robert Sigley先生(大東文化大学)による“The LOB clones: can we accurately compare corpora?”の3件をお願いしました。竹内さんはCSPA(E (The Corpus of Spoken Professional American-English))と呼ばれるコーパスを利用して、語彙の頻度と用法を分析し、その結果を高等学校の英語教育と関連付けて発表します。SPSSを利用した統計処理も扱われますので、統計処理に関心をお持ちの先生方には非常に参考になると思われま。深谷先生はCobuildDirectを利用して、“find + oneself + predicate”という視点再起代名詞構文の意味について、談話、連語、言語使用域の観点から発表されます。コーパスを利用した幅広い観点からの研究の可能性を示す非常に良い例だと思われま。Sigley先生は、*International Journal of Corpus Linguistics*等に寄稿され、国際的に活躍されている先生ですが、今回は、100万語規模の5つのコーパス(Brown, LOB, Frown, FLOB, Wellington Corpus of New Zealand English)を取り上げ、それらを利用した比較研究の妥当性について発表頂きます。ICAME CD-ROMにより、これら5つのコーパスの比較が簡単に行えるようになりましたが、カテゴリーによっては要注意であるとのこと。高頻度語を対象にした主因子分析から得られる“formality” indexという概念も新しく紹介されます。

以上3件の研究発表では、研究対象は違いますが、様々なコーパスが登場し、いろんな統計手法や分析方法が用いられておりますので、今後の我々の研究にも

大きな示唆を与えてくれるものと思います。是非、ご期待ください。

シンポジウムは、西村公正先生(関西外国語大学短期大学部)を中心に「日英パラレルコーパスでどのような英語研究が可能か?」というテーマでご準備頂きました。これは、西村先生を中心にした日本文学の作品とその英訳からなるパラレルコーパス編纂の過程とその利用方法に関する研究です。1999~2000年度の2年間にわたる「私学学術振興財団」の助成を受けたプロジェクトですが、今回はその成果の一部を御発表頂きます。司会と総論的な部分は、西村先生に、ソフトの開発に関わった赤瀬川史朗さん(赤瀬川翻訳事務所)には、パラレルコーパスのファイル化とその検索、出力などについてお話頂きます。続いて、研究事例として、岡田啓先生(関西外国語大学)の「『顔』を含む表現はどのように英訳されているか?」、田中美和子さん(関西外国語大学大学院)の「『とき』と“When”」、鷹家秀史先生(岡山朝日高等学校)の「英語教育における日英パラレルコーパスの利用」の3件のご発表をお願いしております。

パラレルコーパスのアイデアは1990年代初頭にはすでに珍しいものではありませんでした。S. JohanssonやK. Hoflandは英語とノルウェイ語のパラレルコーパスの編纂を計画しておりましたし、CRATERコーパスと呼ばれる電気通信分野の翻訳文章を集めた英語・フランス語・スペイン語のコーパスも出ております。1999年にはELRA(European Language Resources Association)が英語・フランス語のパラレルコーパスであるMULTEXT JOC Corpusをリリースしましたが、日本においては、本格的な日本語・英語のパラレルコーパスは編纂されておりました。今回のシンポジウムで、日本における本格的なパラレルコーパスが初めて登場するわけですので、その成果がおおいに期待されます。レジメの最後に収録作品のリストの一部を掲載しておりますのでご覧下さい。

大会プログラムとして定着した午前中のワークショップでは、井上永幸先生(徳島大学)に「初めてのコーパス検索：WordSmith Version 3を使って」と題して、コンコーダナーの基本的な使用法の実習を行います。この2年間、東京地区では東支部主催の講習会が年2回の割合で開催され、新しい会員獲得のためコンピュータを利用した英語研究の初歩的な講習を行ってきました。一方、関西地区では、この種の講習会

は大会時のワークショップだけでしたので、初歩的なコンコーダナーの利用法をここ数年扱っておりませんでした。東京での講習会に関西地区からも参加があることを考え、今回のワークショップは全くの初心者にも分かりやすい内容でと、井上先生にはお願い致しました。2時間たっぷり使って、前半は、インターネット上の WordSmith のダウンロード、インストール、フリーテキストのダウンロードと検索の準備を、休憩を挟んだ後半では、WordSmith Tools の Concord と WordList の使用法を扱います。これからコーパスを利用した研究を始めたいと思っている方には是非お勧め下さい。学生、院生の参加も歓迎いたします。参加御希望の方は、あらかじめ事務局宛てに、葉書あるいは電子メールでお申し込みください。先着 30 名（予定）で締め切らせていただきます。英語コーパス学会の会員であれば参加費は無料です（非会員の場合は参加費 1,000 円）。

## 2. 『英語コーパス研究』第 8 号について

『英語コーパス研究』第 8 号（2001）への投稿状況につきましては、前号のニューズレターでお知らせしましたが、その後の進捗状況は以下の通りです。

特別寄稿論文 2 名 (Reppen, Biber 両先生)  
論文 2 名、研究ノート 2 名、ソフトウェア紹介 1 名、海外レポート 1 名、論文紹介 1 名

現在、査読作業を終え校正段階に入っています。審査委員の先生方には、お忙しい時期に査読作業を快く引き受けていただき、丁寧なご助言を賜りました。この場を借りて、厚くお礼を申し上げます。帝塚山大学短期大学部で開催される 4 月の大会での配布に向けて、編集委員一同、最善を尽くす所存です。引き続きみなさまのご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

『英語コーパス研究』編集委員長  
深谷輝彦

## 3. 東支部主催第 4 回「コンピュータによる英語研究の講習会」報告

平成 12 年 11 月 25 日（土）大東文化大学板橋校舎で第 4 回「コンピュータによる英語研究の講習会」を開催し、盛会のうちに無事終了しました。参加者は計 38 名でした。第一部は「コンコーダスラインから何が見えるか」と題して、来日中の名誉会員 Geoffrey Leech 先生（ランカスター大学）からコンコーダスラインの分析法の手ほどきを受けました。BNC を WordSmith で検索し、vast, huge, immense の右ソートされたコンコーダスを表示した後、直後に来る単語

による意味の分類がどのようにできるかを具体的に御説明頂きました。

第 2 部では、「TXTANA standard の利用方法」と題して、開発者である赤瀬川史朗さん（赤瀬川翻訳事務所）本人から、TXTANA 最新版の効果的な利用法の実習をして頂きました。MicroConc のコーパスを利用した実習は、非常に実際的で、予定時間を 30 分も超過し、赤瀬川さんには参加者の熱心な質問に答えて頂きました。

4 回目になる今回の東支部主催の講習会には会員も何名か参加頂きましたが、特に会員の勤務先の大学院生が積極的で日本大学、明治大学の大学院生が盛んに質問していました。新しい会員獲得を目的としたこの講習会ですが、若い研究者が育つきっかけにもなればと思っております。平成 13 年度も引き続きこのような講習会を開催したいと思っております。具体的な日程は、現時点では未定ですが、決まり次第、この Newsletter あるいは雑誌でお知らせします。会員諸氏のご参加、あるいは、参加者の勧誘に御協力頂ければ幸いです。

JAECs 東支部支部長  
山崎俊次

## 4. 新入会員紹介

（個人の住所および電話番号は、オンライン版のニューズレターでは公開していません。郵送されるニューズレターをご覧ください。）

JAECs Newsletter No. 31 発行以降の新入会員の方は次の通りです（3 月 10 日現在、敬称略）

田中 泉  
E-mail:  
富田 祐一（大東文化大学[4 月より]）  
E-mail:  
杉浦 千早（名古屋外国語大学 S）  
E-mail:  
皆島 博（福井大学）  
E-mail:  
吉村 真理子（三重大学 S）  
E-mail:

## 5. 名簿訂正のお願い

（個人の住所および電話番号は、オンライン版のニューズレターでは公開していません。郵送されるニューズレターをご覧ください。）

住所・所属・電話番号・E-mail アドレスなどの変更  
大名 力（名古屋大学大学院）  
E-mail:  
住所・電話番号・E-mail アドレスの変更  
木村 利夫

E-mail:

E-mail アドレスの変更

西村 公正

西村 秀夫

吉村 由佳

## 6. 事務局から

### 会費納入のお願い

山陽学園大学での第 15 回大会時の総会でお話しし、今年度より会費を値上げさせていただき、一般会費 5,000 円、学生会費 4,000 円、賛助会費 15,000 円をお納め頂いております。4 月の大会時にも納入可能ですが、当日の事務の混乱を避けるため郵便振替用紙を同封致しますので、来年度分の会費額を事前にお納め頂ければ幸いです。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。2000 年度会費未納の方は合わせてお納めください。2 年続けて会費未納の場合、*JAECs Newsletter* 等の送付を中止させていただきます。なお、所属、住所、電話番号などの変更がございましたら、合わせてお知らせ下さい。

### 帝塚山大学短期大学部へのアクセスと宿泊について

冒頭の「第 17 回大会のご案内」でも述べましたように、帝塚山大学短期大学部へは、近鉄奈良線「学園前」駅より徒歩 5 分です。「学園前」駅は特急・快速急行など全ての電車の停車駅です。

主要駅からの所要時間は、梅田から約 35 分（地下鉄御堂筋線「なんば」駅下車、近鉄奈良線快速急行利用）、難波から約 27 分（近鉄奈良線快速急行利用）、奈良から約 10 分（近鉄奈良線快速急行利用）、京都から約 40 分（近鉄京都線快速急行利用、「大和西大寺」駅で近鉄奈良線快速急行に乗り換え）です。以下に簡単なアクセスマップを貼り付けておきます。なお、宿泊に関しましては、大会準備委員の梅



咲敦子先生より情報を頂いておりますので、これも転載しておきます。

奈良スリーエムホテル[ホテルハーフタイム]

(奈良市芝辻町 2-11-1, TEL: 0742-33-5656)

シングル 6,825 円 ツイン 11,550 円 (税,サ込)

近鉄奈良線新大宮駅徒歩 3 分。

申込時に帝塚山大学の紹介であることを言っていたと割引料金になります。(朝食無料サービスがありますが、期間によるとのことですので申込時にご確認下さい。)

ビジネスホテルニューたかつじ

(奈良市芝辻町 4-12-5, TEL: 0742-34-5371)

シングル 6,000 円 ツイン 11,000 円 (税,サ込)

近鉄奈良線新大宮駅徒歩 5 分。

新大宮ビジネスホテル

(奈良市芝辻町 2-11-16, TEL: 0742-34-1166)

シングル 5,250 ~ 5,775 円

ツイン 9,450 ~ 10,500 円 (税,サ込)

近鉄奈良線新大宮駅徒歩 5 分。

ホテルアジュール奈良

(奈良市油坂町 1-58, TEL: 0742-22-2577)

シングル 7,800 ~ 8,300 円

ツイン 14,000 ~ 16,000 円 (税,サ込)

近鉄奈良線奈良駅徒歩 5 分。

新大宮駅は、奈良駅方向へ向かって学園前駅から 3 つ目、西大寺駅（近鉄京都線乗換）から 1 つ目の駅です。料金は、2001 年 2 月 2 日現在のものです。

### 事務局をお手伝い願える方を募集しています。

昨年 5 月以来、事務局が一人の状態が続いております。会計管理と名簿管理、*Newsletter* の発送などのお手伝いができる方を、自薦、他薦で募集中です。できれば Microsoft Access に堪能な方が望まれます。

### その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありませんでしたら、どしどしご提案ください。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書の紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですのでお寄せください。

FORUM

念願の BNC-World が手元に

豊田高専 高橋 薫

<http://ll.dge.toyota-ct.ac.jp>

E-mail:

BNCとの出会いは、1996年マンチェスター理工科大学大学院言語工学科に在籍中のことであった。当時、主にLOB Corpusのデータ解析とその論文の執筆に追われていたため、BNCに手が回らない状況ではあったが、解析のノウハウが即座にBNCに応用できたことも手伝って好奇心がそそられるまま、簡単な解析をおこなってみた。そして、その結果に目を見張るものがあったことを今でも記憶に留めている。

当時のBNCは、文法範疇標示(タグ)がLOBのそれを幾分簡素化したため、コーパスデザインとしての新奇性はそれほど感じられないが、構成上、大きく5つのブロックに別れたコーパスファイルの各ブロックの情報内容には特筆すべきものがあった。ちなみに、「コーパステキストに関する情報の概要」、「カテゴリー表記」、「コーパステキストを表すキーワード」、その他「ファイル情報や使用上の注意」等である。

レジスター間の対照比較がもてやほされた感のあるコーパス研究において、著者の年齢、出典地域、性別、読者対象、記述媒体、出版地域、年代、文中の抽出箇所等(会話文も多種の情報あり)にいかにも注目し研究を進めるかが、その後のコーパス研究の動向を示唆するところでもあろうと、BNCの使用許可のはずれた日本でほぼ5年間指をくわえながら遠い異国の地を眺めていたが、意外に研究は低調のようである。

言語学にとどまらず、イギリスの歴史、文化、風土に踏み込むこみ、優雅な論文が書けそうな気もするのに、いったいBNCはどういった使われ方をしているのだろうと、大いに疑問でもある。

いずれにしても、新たなBNCがこうやって手元にある以上、しかも今度は公明正大に使えるのだから、何か楽しい研究ができそうな予感が、ただ今ハードディスクから聞こえるインストール中のカリカリと言う小気味よい音の中、感じられる。

それにしても、1.58ギガの大容量のためか、かれこれ1時間にもなろうとしている。

そろそろパソコンのクロック数を上げなくてはいけない時期のようだ。

ちなみに、手前味噌ながら、拙著 (Technical paper) *A Study of Text Typology: Multi-Feature and Multi-Dimensional Analyses*. Kaoru Takahashi. 1997. 60 pages. ISBN 1 86220 035 1, £4.50なども、この場を借りて、ご紹介させていただきます。

# 英語コーパス学会 Newsletter No. 33

May 19, 2001

■会長: 今井 光規  
■事務局: 〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 中村純作研究室  
■TEL: 088-656-7129 ■郵便振替口座: 00940-5-250586 (英語コーパス学会)  
■URL: <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html> ■E-mail: [jun@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:jun@ias.tokushima-u.ac.jp)

**JAECS**  
Japan Association for English Corpus Studies

## 会長就任のご挨拶

大阪大学言語文化学部教授 今井光規

今年度から、齊藤俊雄先生の後を受けて会長を勤めさせていただくことになりました。私に出来る範囲で微力を尽くしたいと存じます。会員の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「英語コーパス学会」は、平成5年に「英語コーパス研究会」として発足し、平成9年に学会となり、その後東支部も設置され、まだ若く比較的小規模ながら、すでに内外に向け独自の重要な役割を果たしています。われわれの学会がここまで発展することが出来たのも、前会長をはじめ、会員の皆様ならびに運営委員の方々の創意あふれるご努力の賜物と存じます。

近年、関連の様々な学会で、さかんにコーパス言語学関係のシンポジウムやワークショップが開かれています。そのような場で中心的に係わっているのは、まず例外なく本学会のメンバーの方々であることが知られています。このように、われわれの学会は英語を中心として、外国語の語学、文学、教育などの多様な分野でコンピュータを活用する最先端の研究を行い、その技術や方法の普及を図る努力において、国内ですでに指導的な立場に立ち、海外に向けても多くの会員諸氏が大きな貢献をしておられます。

本学会は、このように輝かしい発展の歴史を刻んでいます。最初の出発時点から数えると、2002年4月で設立10周年を迎えます。学会ではこれを祝い、さらに新たな飛躍を目指すために、記念論文集の刊行を含む記念事業を企画しています。これが学会の当面の一つの大きな課題であります。

もちろん、われわれの学会は、他にも多くの重要な課題を抱えています。たとえば、前会長は以前から、「思ったほど会員数が増加しない」ことを気にかけておられます。会員数は、学会の運営上重要な意味をもちますので、私も学会のPRには努めるつもりですが、上に述べましたように、変革期のまただ中で新しい道を模索する今日の教育・研究界に独自の貢献を成しつつあるかぎり、学会は堅実に発展し、会員数も然るべきところに安定するものと、私自身はいくらか楽観しています。また、われわれの学会は、草創期の困難な時期を無事に過ごしましたので、今後は、学会の在り方、学会の管理・運営についても、つねに厳しく自己評価し、また会員の皆様から忌憚のないご意見を賜りながら、一層の合理化を図り、学会を最適の形に改善していきたいと考えています。

コンピュータコーパスを活用する研究活動自体、それほど長い歴史があるわけではありません。われわれは、流行のIT革命の技術面のみならず、今日の研究・教育を取り巻く困難な状況を見据え、高い精神性をもちながら広い視野から学会活動を考え、時代の要請に正しく応えていきたいと存じます。学会の発展のために、皆様の建設的なご意見をお寄せいただければ幸いです。

## 会長退任のご挨拶

大東文化大学外国語学部教授 齊藤 俊雄

3月末に任期満了で会長職を退きましたが、非力な私が大過なく任期を全うできたことは、私を支えて下さった事務局の方々、役員の方々、それからもちろん会員の皆さん方のお陰と心からお礼を申し上げます。今は会長職を離れて肩からずっしりと重い荷物をおろしたような気持ちであります。

8年前に、世界におけるコーパス言語学の爆発的な発展に追いつこうと、今井、中村、赤野などの諸先生らと計って、「英語コーパス研究会」を立ち上げたことを昨日のこのように鮮明に憶えています。西日本を中心にわずか数十名の会員で発足した英語コーパス研究会でしたが、5年目に「英語コーパス学会」と改称し、8年経った現在は会員数も二百数十名になり、東支部も発足し、全国的な学会になりました。



その間我が国におけるコーパス言語学の研究水準も世界の水準に劣らないところまで上がってきたと存じます。しかしまだ世界の学界に大きく貢献するところまで行っていないのではないかと思います。

英語コーパス学会が新しい有能な会長を迎えたのを契機にして、今後日本のコーパス研究が世界に向かって大きく貢献することを期待しております。

本当に長い間皆様のご支援有り難うございました。紙上を借りて厚くお礼を申し上げます。

## 1. 第17回大会報告

英語コーパス学会第17回大会は、4月21日(土)に奈良の帝塚山大学短期大学部で開催されました。当日は雨模様の天候でしたが、事務局の調べでは正会員76名、新入会員8名、当日会員16名、賛助会員1名の合計101名の出席がありました。

恒例になっております午前中のワークショップは、「初めてのコーパス検索：WordSmith Tools Version 3.0を使って」と題して井上永幸先生(徳島大学)にご担当頂きました。このワークショップでは、コーパス検索のための代表的なコンコーダンサーである WordSmith Tools のダウンロードとフリーテキストを使っての基本的な使用法を、初心者にも分りやすく説明していただきました。インターネット上で井上先生のホームページを参照しながら、ステップを追っての実習は、分りやすくとても好評でした。記録的な50名を越える参加者人数に、コンコーダンサーの利用に関する関心の高さを改めて再認識させられると同時に、関西地区でも基本的なコンコーダンス利用のための講習会の必要性を感じました。

午後の大会では、開会行事として会長挨拶、開催校から小林和美帝塚山大学短期大学部長のご挨拶を頂いた後、総会が開かれました。(総会の内容については、下記をご覧ください。)引き続き、大会の中心行事である研究発表3件と、休憩を挟んでシンポジウムが行われました。

研究発表では、竹内典彦先生(札幌稲西高校)の「ホワイトハウスの記者会見に見られる語彙の特徴：高校の現場からの視点で」、深谷輝彦先生(椋山女学園大学)の「視点再帰代名詞構文の意味：談話、連語、言語使用域からのアプローチ」、Robert Sigley 先生(大東文化大学)の「The LOB clones: can we accurately compare corpora?」の3件の研究をご発表いただきました。

竹内先生はホワイトハウスでの記者会見の模様を含む The Corpus of Spoken Professional American English を MonoConc Pro2.0 と呼ばれるコンコーダンサーを使って分析した結果を、深谷先生は、「find + oneself + predicate」という視点再起代名詞構文を CobuildDirect を利用して検索、その意味について、談話、連語、言語使用域の観点から発表されました。Robert Sigley 先生は、100万語規模の5つのコーパス(Brown, LOB, Frown, FLOB, Wellington

Corpus of New Zealand English) を取り上げ、高頻度語を対象にした主因子分析から得られる“formality” index”による比較分析の結果を発表されました。以上3件の発表は、研究対象はそれぞれ違いますが、様々なコーパスが登場し、いろんな統計手法や分析方法が用いられておりましたので、今後の我々の研究にも大きな示唆を与えるものでした。

本大会を締めくくる最後のプログラムとしては、西村公正先生(関西外国語大学短期大学部)を中心に「日英パラレルコーパスでどのような英語研究が可能か?」というテーマでシンポジウムが開かれました。司会と総論的な部分は西村先生に、ソフトの開発に関わった赤瀬川史朗さん(赤瀬川翻訳事務所)には、パラレルコーパスのファイル化とその検索、出力などについてお話を頂きました。続いて、研究事例として、岡田啓先生(関西外国語大学)の「『顔』を含む表現はどのように英訳されているか?」、田中美和子さん(関西外国語大学大学院)の「『とき』と“When”: 語りの when 節の意味特徴」、鷹家秀史先生(岡山朝日高等学校)の「英語教育における日英パラレルコーパスの利用」の3件のご発表をお願いしました。膨大な資料のパラレルコーパス化に伴う、苦労話等も含めて、わが国では最初の本格的なパラレルコーパスによる実証的な研究発表でしたが、意味論だけでなく英語教育の現場からの視点も含み、示唆に富んだものとなりました。1冊の冊子にまとめられたハンドアウトは、15回大会のLGSWEのシンポジウムに倣ったものですが、膨大なデータに基づき、その量だけでなく、質的にも、参加者全員に素晴らしい資料を提供して頂きました。

大会終了後の懇親会には約40名の先生方にご出席頂きました。新しく会長になられた今井光規先生のご挨拶の後、大会開催校ゆかりの八木克正先生(関西学院大学)のご発声で乾杯、会員同士の交流と情報交換、元会長の斎藤俊雄先生(大東文化大学)への花束贈呈、斎藤先生の学会創設にまつわる回顧談等でおおいに盛り上がりしました。

雨模様の天候でしたが、100名を越える参加者を迎え、大会を無事、成功裏に終えることができました。これも、素晴らしい会場を提供して頂くと共に、経済的にもご援助を頂いた帝塚山大学のご厚意と、会場校の和田弘名、梅咲敦子大会準備委員のご尽力があったことでした。この紙上を借りて深く

御礼申し上げます。また、帝塚山大学の学生諸君にも、会場準備、受付などのお手伝いをいただきました。大会成功の陰には、開催校の学生諸君もおおいに貢献したことを付け加えたいと思います。

## 2. 役員交代について

大会前日の4月20日午後6時より開かれた運営委員会において役員交代に関する案件がいくつか承認されました。まず、英語コーパス研究会から英語コーパス学会に移行して以来2期4年会長を勤められた齋藤俊雄先生(大東文化大学)が「会長選出に関する内規」により退任、後任として今井光規先生(大阪大学)に新しく会長をお引き受けいただくことになりました。第17回大会冒頭に事務局よりその旨報告し、今井先生には新会長としてのご挨拶をいただきました。大会にご出席いただけなかった会員諸氏も多いので、このニュースレターの巻頭に改めてご挨拶を寄稿頂きました。今後とも、学会のリーダーとして、我々の学会活動がますます活発になり、実績があげられますようよろしくお願いいたします。

会長職を退任なされた齋藤先生にも、退任のご挨拶をご寄稿頂きました。英語コーパス研究会発足以来、8年間、会長としてだけではなく、時には事務局長、会誌編集長を兼任し、精力的に学会の発展に尽くされてきた齋藤先生の献身的な努力のおかげで今日の英語コーパス学会があることは、会員全員が認めることです。長い間どうも有り難うございました。健康にくれぐれもご配慮なされるとともに、今後とも学会の発展のため、大所高所よりご助言、ご指導のほどよろしくお願いいたします。なお、齋藤先生には当分の間、学会運営委員としてお残りいただくことになっております。

運営委員にも移動がありました。英語コーパス研究会発足以来、運営委員をお引き受けいただいております鈴木重樹先生(名古屋学院大学)が職務多忙のため退任、後任を名古屋地区より滝沢直宏先生(名古屋大学)にお願いいたしました。また、鈴木先生同様、研究会発足当初から監事をお勤めいただいた丸谷満男先生(追手門学院大学)が年齢を理由に退任を希望されました。事務局としては運営委員としてお残りいただくようお願いいたしました。が、停年を迎え公職を退きたいとの強いご意向を尊重し、監事の後任を西村道信先生(大手前大学)にお願いいたしました。鈴木先生、丸谷先生、長い間ご苦労様でした。滝沢先生、西村先生、よろしくお願いいたします。

昨年4月よりお願いしている先生方4名を除く他の運営委員の先生方は、引き続き2年間運営委員をお引き受けいただくことになりました。事務局も任

期を1年残しておりますので続投ということになります。

永尾智先生(香川大学)が退任後、事務局員はほぼ1年間空席でしたが、このたび高橋薫先生(豊田高専)より、お手伝いを頂けるとのお申し出がありました。次のNewsletterの発送を契機に、学会の会計管理、名簿管理などをお願いする予定です。高橋先生、大変ですがよろしくお願いいたします。

## 3. 総会について

第17回大会より、大会にご参加頂いた会員のの中から議長を選出し、議事を進行する総会の運営方法を採用することになり、今回は西出公之先生(都留文科大学)に議長をお願いしました。

総会の主な議題は、過年度の決算報告と当該年度の予算案の審議ですが、事務局より提案、説明いたしました平成12年度決算書と平成13年度予算書が原案通り承認されました。なお、決算報告に先立ち、4月20日午後4時より監事の丸谷満男先生(追手門学院大学)の監査を受け、会計処理が適正であるとの報告も書面で頂いております。総会に出席なさらなかった会員諸氏には、決算書、予算書、監査報告書の写しを同封いたしますので、ご確認下さい。

その他、事務局から人事と今後の学会活動に関する報告があり総会を終了しました。時間の関係で、十分な審議は尽くせませんが、今後もこのような形式で総会を開きたいと思っております。

## 4. 会誌『英語コーパス研究』第8号について

奈良の帝塚山大学短期大学部における第17回大会に出席された会員には大会当日、また、大会に出席できなかった会員の皆様にも、このNewsletterとともに『英語コーパス研究』第8号が届いているかと存じます。第8号巻頭には、第16回大会で講演されたBiber, Reppen先生(Northern Arizona University)からご寄稿いただいた論文を掲載しています。論文、研究ノートではコーパスの斬新な活用例が示され、非常に刺激的な論考を収めることができました。コーパス分析ツールとして名高いTXTANA Standard版について、ツール作成者の赤瀬川史郎さん(赤瀬川翻訳事務所)ご自身から紹介してもらっています。家入葉子先生(神戸市外国語大学)にはCIMQL-IIIという統計学ワークショップの様子をご報告いただいております。最後に齋藤俊雄先生(大東文化大学)には、新しい企画で、コーパス英語史研究の特集号を紹介する論文をご執筆いただきました。

論文を投稿された執筆者の方々に感謝申し上げますと共に、審査の過程で査読にご協力いただいた先

生方、編集の様々な場面で援助を惜しまれなかった西納春雄、吉村由佳両編集委員、編集上困ったときにいつも助け船をだして下さった前会長の齊藤俊雄先生、事務局の中村純作先生には、この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。

深谷輝彦（梶山女学園大学）  
『英語コーパス研究』編集委員会

#### 5. 会誌『英語コーパス研究』第9号について

『英語コーパス研究』第9号の原稿を次の要領で募集いたします。会員各位の積極的な投稿をお待ちしております。

##### 【原稿の種類】

1. 英語コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた「研究論文」、「研究ノート」
2. 「コーパス紹介」、「ソフト紹介」、「書評」、「海外レポート」、「論文紹介」などの各種情報あるいは紹介原稿

##### 【投稿申込締切】2001年6月30日(土)

(氏名、所属、原稿の種類とタイトルを事務局までお知らせください。)

##### 【原稿提出締切】2001年10月1日(月)

(ハードコピー4部及びフロッピーディスクを提出。)

第8号とは異なり、第9号では原稿提出時にFDの提出もお願いいたします。

##### 【原稿提出先】

〒464-0802 名古屋市千種区星ヶ丘元町 17-3  
梶山女学園大学文学部  
深谷輝彦研究室宛

##### 【原稿の長さ】

1. 研究論文  
和文 35字×30行×15枚以内  
英文 70ストローク×35行×15枚以内  
(いずれも Abstract(英文)、注、書誌を含む。)
2. 研究ノートは10枚以下、その他は研究論文の半分以下。

##### 【書式】

第8号所収の論文を参考にしてください。詳細は学会ホームページでご確認ください。

##### 【採用通知】11月頃

##### 【刊行予定】2002年3月25日

##### 【問い合わせ先】

深谷輝彦  
E-mail:  
FAX: 052-781-6210

『英語コーパス研究』編集委員会

#### 6. 第18回大会の日程と研究発表募集について

2001年度の秋の大会(第18回大会)は10月6日(土)に中央大学多摩キャンパス(〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1 : 0426-74-2144 (広報課) URL: <http://www.chuo-u.ac.jp>)で開催される運びとなりました。会場校の大会準備委員である新井洋一先生のご協力を得つつ、準備に取りかかります。会場校へのアクセスには中央線立川駅で多摩モノレールに乗り換え(約16分)あるいは京王線・小田急線多摩センター駅下車、多摩モノレールに乗り換え(6分)または13番乗り場よりバス(12分)などが利用できます。是非、今から出張の予定に組み込んで頂ければと思っております。秋たけなわの多摩丘陵でお会いできることを会場校準備委員、事務局とともにお待ちしております。

大会での研究発表を次の要領で募集いたします。発表を希望される方は、下記の要領に従って、郵便または電子メールのいずれかで事務局にお申し込みください。

##### 【応募締切】2001年6月30日(土)

##### 【提出物】題目と要旨(800~1200字程度)

##### 【内容】本学会にふさわしい、コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究

##### 【採否決定】2000年7月中旬(予定)

- ##### 【その他】
1. 時間 発表 25分+質疑応答 5分  
(応募数により短くなることもある)
  2. 資格 本学会会員であること

シンポジウム、ワークショップなどの企画についてもアイデアをお寄せください。

開催校よりの補助を得られる可能性を考慮して、一昨年より、春の運営委員会で翌年の春秋2回の大会会場校を決定することになっております。今年度春の大会時の運営委員会で、来年春の第19回大会は久々に大阪大学言語文化部で、秋の第20回大会は名古屋大学で開催されることに決定いたしました。会場校の先生方にはお世話になりますが、よろしく願いいたします。なお、詳しい日程などはその都度、*Newsletter*でお知らせいたします。

#### 7. 平成12年度の東支部の活動について

英語コーパス学会東支部では平成12年度に次のような活動を行いました。

第3回コンピュータによる英語教育・研究

日時：平成12年7月29日(土)~30日(日)

場所：大東文化大学板橋校舎



内容：1部「コンピュータを利用したコーパス言語学の可能性」

講師 吉村由佳(慶応義塾大学非常勤講師)

2部「電子テキストを使った講習(インターネット、CD-ROM等)」

講師 塚本 聡(日本大学)

第4回コンピュータ利用による英語研究：データ分析とソフト

日時：平成12年11月25日(土)

場所：大東文化大学板橋校舎

内容：1部「コンコードスラインから何が見えるか」

講師 G. Leech 教授(ランカスター大学)

2部「TXTANA standardの利用方法」

講師 赤瀬川史朗(赤瀬川翻訳事務所)

参加者は学部生と院生が大半ですが、新会員も参加しております。コーパスの基本的な利用方法(KWIC, Wordsmith, TXTANA等の使い方)をゆっくり教えて欲しい、同じ内容でも繰り返し講習会を開いて欲しい等の希望がありました。コーパス言語学研究方法の一連の流れを習得したいという要望に応じて、今後、コーパスの構築、ソフトの使用方法、コンコードスラインの見方、分析の方法、統計処理等を順次取り上げたいと思っております。なお、上記2回の講習会開催に関して、学会より79,121円の補助を頂きました。

平成13年度の予定は、現在のところ未定ですが、具体案が煮詰りましたら、このNewsletterでお知らせいたしますので、お知り合いの先生方、学生、院生に是非お勧め下さい。

東支部支部長 山崎俊次(大東文化大学)

## 8. JAECS10周年記念事業ワーキンググループについて

冒頭で、新らしく会長になられた今井先生も書かれておりますが、今年度から来年度にむけての学会の重要な行事として、学会創立10周年を記念する事業を考えております。このことは、すでにこのNewsletterでも何度か触れましたが、具体的な行事のプランを策定するために、この度、ワーキンググループを作ることが、運営委員会です承され、以下のメンバーが決定しました。

赤野一郎(京都外国語大学)、井上幸永(徳島大学)、梅咲敦子(帝塚山大学)、田畑智司(大阪大学)、西村秀夫(山口大学)、深谷輝彦(椋山女学園大学)、山崎俊次(大東文化大学)

今井光規(会長：大阪大学)、中村純作(事務局：徳島大学)

予定される事業内容などから、会誌の編集委員長経験者、事務局の業務内容に精通した方を中心にお願いしました。6月中旬に最初の会合を持ち、秋の大会までには、具体案をまとめる予定です。主な事業内容としては、これまで記念論文集の発行、学会賞の制定などが上がっておりますが、会員諸氏も上記メンバーにどしどしご意見をお寄せ下さい。なお、事務局としては、この記念事業に関する費用に関しては、学会の通常予算ではなく、特別会計を組みたいと思っております。

## 9. 事務局から

### 会費納入のお願い

2001年度会費(一般5,000円、学生4,000円)未納の方には郵便振替用紙を同封いたしますのでお納めください。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

2000年度会費未納の方は、2001年度分と合わせてお納めください(振替用紙にその旨記しております)。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦ください。会誌は昨年度分の会費をお支払い頂いている会員にお送りしておりますので、2000年度分未納の方には、今回はお送りいたしません。納入頂いた時点でお送りいたします。また、2年続けて会費未納の場合、JAECS Newsletter等の送付を中止させていただきます。

住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添えください。

### JAECS 会員名簿の配布について

第17回大会には間に合いませんでしたが、このNewsletterと同時に、会員名簿をお送りいたします。5月10日時点での最新情報を記載したつもりですが、誤りがございましたら、事務局までご一報下さい。

### JAECS ロゴについて

JAECSのロゴを決定頂いて、長いこと経ってしまいましたが、会長交代と同時に、Newsletterのヘッドに新しいロゴを貼りつけました。すでに本学会ホームページ(<http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html>)にアップロードしているNewsletterはこのデザインになっていることにお気づきの会員諸氏もおいでになることと思いますが、ご意見をお聞かせ下さい。

## その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案ください。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書の紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですのでお寄せください。

## FORUM

### Lancaster 大学での 1 年を振り返って

神戸商科大学  
瀬良晴子

E-mail:

1999 年 4 月より 2000 年 3 月まで英国 Lancaster 大学で主に Stylistics および Corpus Linguistics の勉強をする機会をいただきました。本当は visiting scholar などの立場で行きたかったのですが、supervision を受けるには visiting student の方がよいと言われ、高い授業料を払う羽目になりました。他の国からの研究者も visiting student の人が多く、財政的に苦しい大学事情からできるだけお金を払って来てもらう、というような姿勢を感じました。

小学 2 年の息子と二人でしたので、なかなか思うように授業に出たり研究をしたりはできませんでしたが、その中で一番有益だったのは MA の Corpus Linguistics のセミナーでした。これは Tony McEnery による講義とペアになったもので、受講者は大半が留学生でコーパスの利用が初めての人がほとんどでした。そのため、セミナーではまずネットワークで使える BNC を利用しコンコーダンスや検索の仕方など基本的な概念、操作を教えていました。その後、「60 年代と 90 年代の英語のちがいは？」などの例題をもとに、Standard Corpora を Wordsmith で分析し、Wordlist やその他の機能の使い方や効用を学びました。後にインターネットなどを利用した各自のコーパスの作り方、ヘッダー情報によるファイルの整理法などを初心者にもわかりやすく教えていただきました。

講師の一人が、コーパス学会にも所属しておられ当時 Lancaster 大に留学中の投野由記夫先生でした。いつも親切に質問に答えていただき（日本語で）、授業外でもコーパスのことをいろいろ教えて

いただき、日本に帰ってから早速コーパスを少しは利用できるようになり、本当に感謝しています。

### BNC Sampler に重複するテキストが？

徳島大学 S  
岡元 義彦

E-mail:

会員の皆さんの中にはもうすでにお気付きの方もいらっしゃると思いますが、BNC Sampler で検索したときにまったく同じセンテンスが 3 回出現するという体験をしたことはございませんか。たとえば、when で検索すると“when they suggest ...”といった全く同じセンテンスが 3 回出現します。それぞれのセンテンスの Bibliographic Data を見てみると、a8w、a95、a9e という 3 つのファイルから抽出されたものだということがわかります。ちなみに、これらのファイルはそれぞれ、Guardian Newspapers Ltd. の 1989 年 12 月 7 日付け electronic edition、1989 年 12 月 8 日付け electronic edition、そして、1989 年 12 月 10 日付け electronic edition から作成されたものです。

そこで、これら 3 つのファイルの中身をテキストエディターで見ると、a95 のテキストは a9e の中にほとんど収められており、a9e の中には a95 には収められていないテキストが存在することがわかりました。また、a8w に関しては、その一部が他の 2 つのファイルと重複している部分が見つかりました。たとえば、Simon Tisdall 氏の記事は重複している部分がほとんどですが、そのなかには単語やフレーズがいくつか抜けているセンテンスも存在します。

これらの結果は、左ソートあるいは右ソートされたコンコーダンスラインを参照して、コロケーション情報を考察する場合などでは、問題はありませんが、頻度などにより統計手法を用いて分析する場合には注意が必要です。対策としては、Sara ではなく Word Smith Tools を使って検索を行うという方法があります。このとき、Choose Text のところで、先に挙げた 3 つのファイルのうち 1 つ、あるいは 2 つを検索対象から除外して検索してください。この対策以外にも、Sara の Query builder を用いることにより、対処できるかもしれませんが、Word Smith Tools のほうが使い勝手がよいでしょう。

以上、ゼミのレポート作成時に見つけたことを、簡単に報告させていただきました。

# 英語コーパス学会 Newsletter No. 34

Aug. 31, 2001

■会長: 今井 光輝  
■事務局: 〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 中村純作研究室  
■TEL: 088-656-7129 ■郵便振替口座: 00940-5-250586 (英語コーパス学会)  
■URL: <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html> ■E-mail: [jun@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:jun@ias.tokushima-u.ac.jp)

**JAECS**  
Japan Association for English Corpus Studies

## 1. 第18回大会のご案内

英語コーパス学会第18回大会は、10月6日(土)に中央大学多摩キャンパス(〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1 0426-74-2144。多摩モノレール中央大学・明星大学駅下車。詳細は <http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/indexM.html> を参照。「事務局より」の欄に簡単なアクセス方法)で開催されるはこびとなりました。会場校のご好意と新井洋一大会準備委員のご尽力に感謝いたします。

大会プログラムとレジュメを同封いたします。今大会では研究発表とシンポジウムを準備しました。研究発表には小野真嗣さん(北海道大学大学院生)の「タグを使った分析手法による文法研究の精密化: 英語における完了相の考察を通して」と、清水眞先生(東京理科大学) 村田真樹さん(独立行政法人通信総合研究所)による共同研究「科学技術、経済、報道分野における日英語の再帰形の分布について」の2件をお願いしました。

小野さんの発表は、英語の完了相に焦点を当て、従来分析が十分行われていなかった状態動詞と動作動詞の完了相と副詞との共起関係、またこれらの動詞の完了相と進行相との共起関係についてタグ付きコーパスを使用することにより明らかにする試みです。また、所謂学校文法で言われている継続用法、経験用法、完了用法についても、副詞との共起関係を分析します。清水先生と村田さんは、今まで和英辞典、文学作品などのパラレルコーパスを用いて、再帰形を中心に日本語と英語の指示表現の研究に取り組んでおられますが、今回の発表では、科学技術、経済、報道の各分野のパラレルコーパスを利用して同様の分析を行い、異なったパラレルコーパス間の類似性、独自性を意味論的、統語論的に明らかにする予定です。

今回は、英語学、日英対照言語学関連の研究が中心ですが、Taggerの利用法や、春の大会のシンポジウムで取り上げたパラレルコーパスが再登場します。ご期待下さい。

シンポジウムは、東支部の幹事の先生方を中心に企画をお願い致しました。コーパスを利用した研究には検索のためのソフトウェアが当然必要になってきます。当学会でもワークショップの形で、色々な検索ソフトの利用法の講習を行ってきましたが、単発的、

どのソフトを、どういう場合に利用したら効果的な検索が可能なのかが、今一つハッキリしないとの感想も聞いております。そこで、今回のシンポジウムでは、コーパス検索のための各種ツールについて、開発の動機、ツールの長所、短所などの特徴、使用環境、インストールの手順、利用可能なコーパスの種類などについて、開発者自身に講師をお願いし、デモンストレーションをまじえて議論を行うことになり、4名の講師をお願いしました。赤瀬川史朗さん(赤瀬川翻訳事務所)にはTXTANA Standard Edition、塚本聡先生(日本大学)にはKWIC Concordance for Windows、染谷泰正さん(ロゴス語学システム研究所)にはOnline KWIC Concordancer、園田勝英先生(北海道大学)にはPerlを中心としたUnix Toolsを担当していただきます。

司会は山崎俊次先生(大東文化大学)をお願いしておりますが、発表の途中でも、疑問点があれば気軽に手を挙げて質問できるような形で進めたいとの意向も聞いております。このシンポジウムは、各ツール間の優劣を付けることが目的ではなく、あくまで各々の特徴を整理することにより、より効率的なコーパスの検索を可能にすることを目指しています。具体的な利用例も紹介して頂くことになっていきますので、たっぷりとは言えませんが、時間的にも多少配慮致しました。こちらこそ、是非ご期待下さい。

最近リリースされたばかりのBNC World Editionをすでに購入、使用されている会員諸氏も多いことと思います。午前中のワークショップでは、投野由紀夫先生(明海大学)を中心に、コーパス検索ツールの開発に携わっている小学館のマルチメディア局から森田康夫さん、中村隆弘さん、同じく外国語編集部から井面雄次さん、星野守さんに加わって頂き「BNC World Editionを使いこなす」と題して実習を行います。

投野先生はLancaster大学での研究を終えてこの春帰国したばかりですので、BNCに関してはその隅々まで知り尽くしていると言っても過言ではありません。その利用に関しても世界的に第一人者だと思われますし、BNC World Editionも最近になってやっとリリースされたばかりですので、講師、トピックともにタイムリーな企画だと事務局でも考えております。さ

らに、BNC 検索のために開発された Sara32 のデモン  
ストレーションのほかにも、小学館が開発中の  
Corpus Query System による演習が行われます。午後  
のシンポジウムと連動させると、今回の大会はコーパ  
ス検索ソフトの特別企画の感がしますが、参加御希望  
の方は、あらかじめ事務局宛てに、葉書あるいは電子  
メールでお申し込みください。但し、先着 30 名(予  
定)で締め切らせていただきます。英語コーパス学会  
の会員であれば参加費は無料です(非会員の場合は参  
加費 1,000 円)。

秋の多摩丘陵でお会いできることを、会長、大会準  
備委員、事務局ともどもお待ちしております。

## 2. 『英語コーパス研究』第 9 号について

『英語コーパス研究』第 9 号(2002)の原稿を募集  
しましたところ、論文 6 件、新刊紹介 1 件の申し  
込みをいただいております。その他に、今井会長のご  
紹介で Karin Aijmer 先生に執筆を依頼中です。あと、  
論文あるいは研究ノートももう数本、海外レポートあ  
るいは今年初めにでた BNC (World Edition) 関係のも  
のがほしいと思っています。最近、海外からお帰りにな  
られた方がおいでになりましたら、是非、海外レポ  
ートにご応募下さい。

また、JAECS ML でもお願い致しましたが、最近、  
Corpus Linguistics in North America が出版され、米国  
におけるコーパス言語学の現況が紹介されています。  
そこで、『英語コーパス研究』第 9 号でも、この  
本の紹介も含めて米国のコーパス言語学を紹介する  
記事を掲載できればと思っています。こちらにも、ご  
応募頂ければと思っております。9 月末日までにご応  
募いただければ、審査の対象となることが可能ですの  
で、ぜひとも奮ってご応募ください。お待ちしております。  
以下、募集要領を再掲致します。

### [原稿の種類]

1. コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた  
「研究論文」、「研究ノート」
2. 「コーパス紹介」、「ソフト紹介」、「書評」、「海外  
レポート」その他コーパス研究に有益な情報

### [論文の長さ]

1. 研究論文  
和文 35 字×30 行×15 枚以内、英文 70 ストローク  
×35 行×15 枚(いずれも Abstract(英文)、注、書  
誌を含む)
2. 研究ノートは 10 枚以内、その他は研究論文の半  
分以内

### [書式]

第 7 号所収の論文を参考にしてください。詳細は  
学会ホームページをごらんください。

[原稿締切] 2000 年 9 月 30 日(土)

[提出内容] ハードコピー 4 部提出、フロッピーディス  
クは査読終了後提出

[提出先]

〒464-0802 名古屋市千種区星ヶ丘元町 17-3

椋山女学園大学文学部深谷輝彦研究室宛

Tel: 052-781-1186, Fax: 052-781-6210

[採否通知] 11 月頃

[刊行予定] 2001 年 3 月 25 日

『英語コーパス研究』編集委員長

深谷輝彦

## 3. 東支部活動報告

平成 13 年 5 月 26 日(土)に東支部幹事の今年度始  
めての会合を新宿で持ちました。秋の中央大学での大  
会に向けて、東支部でどのようなことが可能かを検  
討、午前中のワークショップと、午後のシンポジウム  
の大枠を決め、大会準備委員会に提案することになり  
ました。今回の大会のワークショップとシンポジウム  
は、この提案に沿って事務局および大会準備委員会で  
具体化したものです。東支部主催の次回コンピュータ  
講習会は 9 月 22 日あるいは 9 月 29 日に行う予定でし  
たが、秋の大会が 10 月 6 日に予定されていることも  
あり、今回は見送ることになりました。今後、東支部  
ではさらに活動を活発にするために新しい世話人を  
入れて、もっと頻繁に「定例会」という形でざっくば  
らんに話せる勉強会を開くことにしております。

学会全体の運営に関しては、もっと若い人が自由  
に参加でき、質問できるような雰囲気に変える必要があ  
るのではないかと、高校の先生や院生も参加できるよ  
うにパラレルセッションを開設したらどうか、特にプロ  
グラムやソフトの開発に関する発表が少ないのでは  
等の意見がでました。以上が東支部の最近の活動状況  
です。

次回東支部コンピュータ講習会は、具体的な日程が  
決まり次第、この Newsletter あるいは雑誌でお知らせ  
しますので、会員諸氏のご参加、あるいは、参加者の  
勧誘に御協力頂ければ幸いです。

JAECS 東支部支部長

山崎俊次

## 4. JAECS10 周年記念行事と臨時総会の開催について

本学会では、来年度に向けての重要な行事として、  
学会創立 10 周年を記念する事業を考えております。  
そのための具体的な行事のプランを策定するため  
に、ワーキンググループを作ることが春の運営委員  
会で了承され、そのメンバーはすでに先の JAECS News-  
letter No. 33 でお知らせ致しました。このたび、この  
ワーキンググループの第 1 回会合が 6 月 9 日(土)大

阪大学言語文化部で開かれ、ご都合で欠席された 2 名の先生を除いて 7 名の委員の参加を頂き、具体的なプランの検討に入りました。詳しい内容は、秋の大会の運営委員会での審議を経て、大会時と次回 *Newsletter* でお知らせすることができると思います。大枠は、今まで何度かお知らせしておりましたように 10 周年記念論文集の刊行と学会賞の制定ですが、それらに加えて来年秋の大会（名古屋大学で開催予定）で記念シンポジウムを開く方向で話が進んでおります。

昨年 11 月発行の *Newsletter* No. 31 にも 10 周年記念論文集についての記事を掲載致しましたが、会員諸氏には、是非この論文集に向けて投稿頂けるようお願い致します。特に若い研究者諸氏にとってはまたと無い発表のチャンスですので、この機会をお見逃しなく。投稿規定などに関しては、上記運営委員会の後、直ちにお知らせできると思いますので、よろしくお願い致します。

なお、当然のことですが、記念事業を行うにあたっては、その財政的な裏付けが必要となってきます。事務局としては、この記念事業の費用に関しては、学会の通常会計ではなく、特別会計を組みたいと思っております。このことは、前号の *Newsletter* でお知らせ致しましたが、4 月の総会にお諮りした本年度の当初予算には、記念行事の具体的な計画が未定でしたので、この特別会計への支出が計上されておられません。上で述べましたように、計画が着々と進行しておりますので、早急に、通常会計から特別会計への支出をお願いしなければなりません。そこで、この秋の中央大学の大会時に、臨時総会を開催させて頂きたいと思っております。具体的な額などに関しましては、これも運営委員会の了承を必要としますので、当日ご説明させていただきますが、よろしくご出席のほどお願い致します。

## 5. 寄贈図書紹介

8 月に事務局宛て、ひつじ研究叢書（言語編）第 23 巻 *Old English Constructions with Multiple Predicates* の寄贈がありました。これは、本学会会員である大門正幸先生（中部大学）が、第 12 回 International Conference on Historical Linguistics（於マンチェスター大学）第 10 回 International Conference on English Historical Linguistics（同）やインターネット上で開かれている英語史研究会などでご発表になった研究成果を中心にまとめられ、今回、日本学術振興会と中部大学の研究成果出版助成金を得て出版されたものです。定価は外税で 7,400 円、Thorpe (1844) の *Ælfric's Catholic homilies* に基づいたデータベースが CD-ROM の形で添付されており、FileMaker Pro や付属のソフトで閲覧できます。

事務局は浅学で、その内容は到底理解できそうにありませんが、英語史をご専門になさっている方にはと

ても参考になりそうです。どなたかにじっくり読んでいただき、会誌『英語コーパス研究』に書評をご投稿頂ければと思っております。

## 6. 新入会員紹介

**（住所・電話番号については、郵送されるニューズレターをご参照ください）**

*JA ECS Newsletter* No. 33 発行以降の新入会員の方は次の通りです（8 月 20 日現在、敬称略）

竹内 研四郎（東京都立航空工業高校）

中尾 浩（愛知大学）

西部 真由美（東邦学園大学）

秦 正哲（流通経済大学）

日景 敏夫（盛岡大学）

渡部 眞一郎（大阪大学）

## 7. 名簿訂正のお願い

*JA ECS Newsletter* No. 33 と共にお送り致しました今年度の会員名簿の記載内容に誤りや、変更がございます。以下のようにご訂正下さい。事務局では、会員名簿のできる限り正確な管理に努めております。誤りや変更がございましたら事務局までご一報下さい。

**（住所・電話番号については、郵送されるニューズレターをご参照ください）**

住所・電話番号の変更

山下 徹

住所の変更

田口 純

所属と E-mail アドレスの変更

村田 和代（龍谷大学）

所属の変更

白谷 伝彦（西日本工業大学）

E-mail アドレスの変更

長谷川存古

藤田 高弘

## 8. 事務局から

### 会費納入のお願い

2001 年度会費（一般 5,000 円、学生 4,000 円）未納の方には郵便振替用紙を同封致しますのでお納めください。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

2000年度会費未納の方は、2001年度分と合わせてお納めください(振替用紙にその旨記しております)。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦ください。2年続けて会費未納の場合、*JAECs Newsletter*等の送付を中止させていただきます。住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添えください。

## FORUM

### NAES 2001 (Göteborg) に参加して

大阪大学 今井光規

#### 中央大学多摩キャンパスへのアクセスについて

冒頭の「第18回大会のご案内」でも述べましたように、中央大学多摩キャンパスへは、多摩モノレールを利用するのが一番便利です。「中央大学・明星大学」駅で下車、会場まで徒歩2~3分です。多摩モノレールには、JR中央線立川駅あるいは京王線多摩センター駅で乗り換えます。新宿駅からでは、どちらのルートを使ってもほぼ同じ時間で着きますが、1時間程度を目安として下さい。モノレールは10分間隔で運転されています。

なお、宿泊に関しては、適宜お考え頂ければと思っております。

#### 印刷用紙の変更について

今回お送りする*Newsletter*、大会プログラム、レジュームから印刷用紙の種類が変わりました。従来も再生紙を利用しておりましたが、できるだけ見た目にも美しいものを用いることで、上質の物を使用しておりました。環境に配慮し、できるだけ省エネを計るという目的で、小生の大学でも今回お配りするような印刷用紙に全面的に変更しております。そこで、本学会でも、今回から多少質を落としたものを使用することに致しました。ご理解頂ければ幸いです。

#### その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案ください。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書を紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですのでお寄せください。

本年5月24日から26日までスウェーデンのイエーテボリ大学で開催されたNordic Conference for English Studies 第8回大会に参加した。NAESはデンマーク、アイスランド、ノールウェイ、フィンランド、スウェーデンの5ヶ国の英文科の人たちの学会で、会場が5国を回りながら3年おきに開催される。参加者は100名程度であった。

6件の基調講演の中にはJan Svartvik (“Writing for a new audience”), Göran Kjellmer (“Polysemy and ambiguity”)が含まれていた。

発表のジャンルは多岐にわたり、研究発表は75件、ポスターは4件だった。そのうち、コーパス言語学的なものは14件で、発表者を国別に見れば、スウェーデン9名(イエーテボリ大6名、ウプサラ大2名、ストックホルム大1名)、デンマーク2名(コペンハーゲン大、ロスキレ大)、フィンランド2名(トゥルク大、ヘルシンキ大)、ノールウェイ1名(ベルゲン大)であった。以下に、若干の発表タイトルを紹介する。

(1) “Change or preserve? On textual structure and translation of passives in English and Swedish,” (2) “A multi-dimensional study of diachronic variation in British newspaper editorials,” (3) “Forms of address vs terms of reference in Early English Correspondence,” (4) “The suffix *-wise*: Cinderella or Sleeping Beauty,” (5) “Causal Clauses in Early Modern English Texts: A Corpus-based Study.”

私自身は、“Syntax and Style in Some Middle English Metrical Romances”という題で、コーパス言語学度の低い発表を行った。

北欧でも、最近では若い研究者たちの業績づくりが厳しく要求されるようである。既存のジャーナルには、論文が採用されても刊行まで何年も待たされることが多い。そこで今回の総会で、独自の学術誌を創刊することが決まった。創刊号は近々オスロ大学の担当で出版されることになった。この雑誌は、大家たちの「くずかご」には決してしないとのこと。



# 英語コーパス学会 Newsletter No. 35

Nov. 10, 2001

■会長: 今井 光規  
■事務局: 〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 中村純作研究室  
■TEL: 088-656-7129 ■郵便振替口座: 00940-5-250586 (英語コーパス学会)  
■URL: <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html> ■E-mail: [jun@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:jun@ias.tokushima-u.ac.jp)

**JAECS**  
Japan Association for English Corpus Studies

## 1. 第 18 回大会報告

英語コーパス学会第 18 回大会は、10 月 6 日(土)に、中央大学多摩キャンパスで開催されました。当日は天候にも恵まれ、事務局の調べでは当日会員、新入会員 8 名を含め 100 名以上の出席がありました。

恒例になっております午前中のワークショップは、「BNC World Edition を使いこなす」と題して投野由紀夫先生(明海大学)を中心に BNC 検索ソフトを開発中の小学館の担当者の方 4 名にもお手伝い頂きました。前半は投野先生の BNC 全般に関するお話を伺い、後半は小学館の Corpus Query System を使った検索の実習を行いました。小学館のシステムは現在開発途上にあり、サーバーが一時に多数のアクセスを処理できず多少トラブルもありましたが、他のコンコーダンサーには見られない便利な機能などの説明も受けました。BNC World Edition は今年になってやっとリリースされた待望の大型コーパスとあって、このワークショップには 60 名を越す希望者が殺到致しました。開催校、講師陣と相談の上、急遽会場を変更、48 名の参加者にはコンピュータをお使いいただけましたが、残りの方は聴講のみとなってしまいました。テーマにもよりますが、今後とも、ワークショップはお早めに申し込みをなされるようお勧め致します。

午後の大会では、会長挨拶の後、学会創立 10 周年記念行事に関連して臨時総会を開かせて頂きました。議長を開催校中央大学に隣接する明星大学の岩下俊治先生にお願いし、10 周年記念事業に関する前日の運営委員会での決定をご報告するとともに、記念事業に伴う特別会計への通常会計からの支出をお認め頂きました。当日の資料を同封致しますので、ご確認下さい。

研究発表では、小野真嗣さん(北海道大学大学院生)の「タグを使った分析手法による文法研究の精密化: 英語における完了相の考察を通して」と清水眞先生(東京理科大学)と村田真樹さん(独立行政法人通信総合研究所)による共同研究「科学技術、経済、報道分野における日英語の再帰形の分布につ

いて」の 2 つの発表をお願い致しました。コーパスを利用した文法研究をより精密に行うために perl を利用した事例と、日本語と英語の特徴を明らかにするためパラレルコーパスを利用した事例は、それぞれ興味深いものでした。

今大会を締めくくるシンポジウムは「コーパス検索ツール解析: 開発者自ら語る検索ツール」と題して東支部の先生方を中心に行って頂きました。司会を山崎俊次先生(大東文化大学)にお願いし、赤瀬川史朗さん(赤瀬川翻訳事務所)、塚本聡先生(日本大学)、染谷泰正さん(ロゴス語学システム研究所)には、それぞれが独自に開発された TXTANA Standard Edition、KWIC Concordance for Windows、BLC KWIC Concordancer について、園田勝英先生(北海道大学)には perl を中心とした Unix tools の使用方法をお話し頂きました。デモンストレーションを交えた講師の先生方のご発表は分りやすく、予定時間を超過したにもかかわらず多くの会員にお残り頂き、活発な質疑で終了しました。

大会終了後の懇親会には 30 名を越す出席があり、乾杯のあと、会員同士の交流と情報交換でおおいに盛り上がりました。今回は出席者全員から一言ということで、思いがけないエピソードや出席者全員の近況報告に楽しい時を過ごしました。

東京地区では 4 度目の大会でしたが、無事、成功裏に終えることができました。これも、素晴らしい会場を提供して頂くと共に、経済的にもご援助を頂いた中央大学のご厚意と、東支部の先生方、特に会場校の新井洋一大会準備委員のご尽力があつてのことでした。この紙上を借りて深く御礼申し上げます。また、中央大学の学生諸君にも、会場準備、受付などのお手伝いを頂きました。大会成功の陰には、明るく、礼儀正しい学生諸君もおおいに貢献したことを付け加えたいと思います。

## 2. JAECS10 周年記念行事について

本学会は来年で設立 10 周年を迎えます。これを記念する行事の企画については、既に昨年当たりからこの Newsletter を通じて何度かお知らせして

まいりました。春の第 17 回大会での運営委員会で、「JAECS 10 周年記念行事ワーキンググループ」を運営委員会の中に作ることを了承頂き、そのワーキンググループで事業内容の検討を続けてまいりました。検討結果は、この秋の運営委員会にお諮りし、ご審議頂いた上で、臨時総会の席上で事務局よりご報告致しました。(上の大会報告でも述べましたように、当日の資料を同封致しますので、大会にご出席いただけなかった会員諸氏には、是非、お目通しをお願い致します。)

< 英語コーパス学会 10 周年記念論文集の刊行 >

記念事業は、大きく分けて 3 つの企画で構成されます。まず、「英語コーパス学会の 10 年間の活動成果を論文集としてまとめ、学会活動の意義を広く世に問う」ことを目的として JAECS10 周年記念論文集を刊行することになりました。詳細は大会資料をご覧くださいますが、300 ページから 400 ページの英文論文集として、できればヨーロッパの出版社から 2003 年の秋季大会を目途に出版することを考えております。出版の世話役である編集委員会は、すでに多忙をきわめている学会誌編集委員会とは別組織を新たに設けることになり、編集委員長には事務局の中村純作(徳島大学)が、編集委員として井上永幸先生(徳島大学) 田畑智司先生(大阪大学)が運営委員会で選出されました。

そこで、会員諸氏を対象として次の要領で研究論文を募集致します。

【投稿資格】投稿時点で本学会会員であること。

【原稿の種類】英語コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究論文

【用語】英語

【書式】所定の Template を応募者に配布する。

【長さ】所定の Template を使用して、15~20 枚。

【仮題と執筆方針の提出締め切り】2002 年 1 月 10 日  
(事務局内 英語コーパス学会 10 周年記念論文集編集委員会宛 e-Mail で)

【原稿提出締め切り】2002 年 9 月末日(ネイティブスピーカーのチェックを受けた原稿とする。)

【審査方法】編集委員会が審査にあたる。審査の手続き等は、編集委員会で案を作成し、運営委員会の承認を得る。

【審査結果の発表】2002 年 12 月

【カメラレディの最終稿締め切り】2003 年 4 月

【出版】2003 年 10 月秋季大会時

詳細については未定の部分もありますが、さし当たっては、応募ご希望の会員諸氏からは「仮題

と執筆方針」を記念論文集編集委員会宛てに e-Mail で提出して頂きます。締め切りが年明けの 2002 年 1 月 10 日ですので、これに間に合うよう是非ご応募下さい。特に、若い研究者諸氏にとってはまたとない論文発表の機会ですので、是非お見逃しなく。論文集には最終的に 25 編は掲載したいと思っております。なお、出版費用の一部として、最終的に掲載される論文の執筆者から 4 万円程度のご負担を頂くことになっておりますので、御協力のほどよろしくお願い致します。

編集委員会では、ご応募頂いた方を対象に執筆要領と書式を設定したテンプレートをお送り致しますが、詳細はその時期に合わせ今後編集委員会で検討致します。基本的には、Rodopi の Language and Computers Series に近いものを考えております。また、編集の過程で執筆者と編集委員会の間で事務的なやり取りが頻繁に行われることが予想されますが、全て e-Mail で行うことを原則と致しますのでご協力下さい。

< 英語コーパス学会学会賞の制定 >

記念事業の 2 番目の柱は学会賞の制定でしたが、これにつきましてもワーキンググループの検討結果を運営委員会でご審議頂きました。その結果、「英語コーパス学会の目的にてらし、個人またはグループがあげた顕著な業績を顕彰する」ことを目的として英語コーパス学会学会賞と英語コーパス学会奨励賞が正式に設定されました。学会賞には賞状と副賞 3 万円、奨励賞には賞状と副賞 2 万円がそれぞれ授与されます。審査には運営委員を中心とした審査委員会が当たりますが、委員長に赤野一郎先生(京都外国語大学) 委員としては朝尾幸次郎先生(東海大学) 中尾佳行先生(広島大学) 西村道信先生(大手前大学)の 3 名の先生方が委嘱されました。

そこで、来年度の秋季大会での学会賞第 1 号の誕生を目指して次の要領で英語コーパス学会学会賞の募集を開始いたしました。

【対象】英語コーパス学会の目的に照らし、顕著な業績をあげた個人またはグループ。ただし、奨励賞は応募期限日において 35 歳以下の個人に限る。

【応募方法】自薦、他薦を問わない。

【提出書類】1) 推薦理由書(所定の書式による)  
2) 対象となる研究業績の現物またはコピー

【応募期限】毎年 3 月 31 日必着

【応募書類提出先】英語コーパス学会事務局

【審査方法】運営委員を中心に構成された審査委員会が審査に当たり、審査結果を運営委員会に報告、了承を受ける。

【審査結果の報告および表彰式】秋期大会の開会式

なお、提出書類のうち推薦理由書の書式は、学会ホームページに近々アップロードの予定です。

< 記念シンポジウム及び記念講演会の開催 >

記念事業の3番目の柱としては、記念シンポジウムと記念講演会の開催を予定しております。現在のところは、英語コーパス学会第20回大会(2002年10月5日(土)を予定、於：名古屋大学)での開催を念頭において、今後、計画を具体化することとなっています。名古屋大学には、言語文化部、文学部、大学院国際言語文化研究科を中心に、また中京地区にも、本学会のメンバーが多数おられますので、土・日の2日にわたる大会開催なども視野に入れて検討できればと思っております。

< 学会通常予算から特別予算への支出 >

英語コーパス学会10周年記念事業を行うに当たり、とりわけ10周年記念論文集の刊行に際しては、相当予算的な裏付けが必要となります。記念事業ワーキンググループでは、論文集刊行については200万円程度は必要だろうと試算しております。このうち半額は執筆者負担(一人4万円)、残りの半分は学会負担ということで100万円を学会の通常予算からお願いすることになりました。更に、記念事業を行うに当たり委員会関係者の旅費なども、遠隔地からおいで頂く場合には半額を補助すること、その他必要経費なども含めて50万円程度を学会で負担頂くことになりました。そこで合計150万円を通常予算から10周年記念事業特別会計へ支出することを、事務局から運営委員会及び臨時総会にご提案し、了承頂きました。新しい予算書を同封しておりますので、ご確認下さい。

なお、記念論文集の出版につきましては、交渉相手の出版社により事情が異なります。場合によっては負担が少なくなることや、更に、負担が増える場合も考えられますので、流動的に考えたいと思っております。また、ワーキンググループの会合などが既に開催されておりますので、特別会計は4月に遡って執行させて頂きました。

### 3. 『英語コーパス研究』第9号について

『英語コーパス研究』第9号(2002)に多くのご投稿を頂き、ありがとうございました。スウェーデンのコーパス言語学者 Karin Aijmer 先生からご寄稿を頂き、巻頭を飾る予定です。また、17回大会で多く

の関心を集めたシンポジウム「日英パラレルコーパスでどのような英語研究が可能か？」を特集としてとりあげるつもりです。西村公正先生(関西外国語大学)を代表とされる研究グループの先生方から論文を寄せていただいています。その他に、研究論文1編、海外レポート、論文紹介が寄せられ、現在査読をすすめています。

また「英語コーパス研究」という学問分野の性格上、会員の皆様からの英語による論文寄稿を今後もおおいに歓迎いたします。世界に向けての発信を意識して頂き、英語論文の割合を少しでも高めていきたいと考えております。

今後とも会員のご協力を得ながら、より良い内容の学会誌を作りあげたいと思っておりますので、引き続きご支援、ご指導を賜れば幸いに存じます。

深谷輝彦(相山女学園大学)

『英語コーパス研究』編集委員会

### 4. 第19回大会の日程と研究発表募集について

2002年度の春の大会(第19回大会)は4月20日(土)に大阪大学言語文化部(〒560-0043 豊中市待兼山町1-8 06-6850-6111)で開催される運びとなりました。英語コーパス研究会発足以来、色々とお世話になっている阪大言語文化部ですが、今回は久々の大会開催です。会場校の大会準備委員である田畑智司先生の御協力を得つつ、準備に取りかかります。阪急宝塚線石橋駅あるいは大阪モノレール柴原駅より徒歩15分です。新学期早々のお忙しい時期だとは思いますが、是非、今から出張の予定に組み込んで頂ければと思っております。桜の時期は既に終わっていますが、春の待兼山でお会いできることを会場校準備委員、事務局ともどもお待ちしております。

大会での研究発表を次の要領で募集いたします。発表を希望される方は、下記の要領に従って、郵便または電子メールのいずれかで事務局にお申し込み下さい。

【応募締切】2001年12月20日(木)

【提出物】題目と要旨(800~1200字程度)

【内容】本学会にふさわしい、コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究

【採否決定】2002年1月下旬(予定)

【その他】1. 時間 発表30分+質疑応答10分(応募数により短くなることもある)

2. 資格 本学会会員であること

シンポジウム、ワークショップなどの企画についてもアイデアをお寄せ下さい。

## 5. 東支部主催の「第5回コンピュータによる英語研究の講習会」について

英語コーパス学会東支部では次の要領で「第5回コンピュータによる英語研究の講習会」を開催します。

【主催】英語コーパス学会東支部

【対象】中高大教員、院生

【内容】WordSmith の活用の基礎

- 1) WordSmith の機能の概要
- 2) コーパス・データの管理方法
- 3) 単語リストの作成
- 4) キーワード分析
- 5) コンコーダンス機能

【日時】平成 13 年 12 月 1 日 (土) 14:00 ~ 17:30

(場合によって時間延長あり)

【場所】八王子市東中野 742-1

中央大学多摩キャンパス

2号館 2102 教室

【交通】多摩モノレール 中央大学・明星大学駅

下車 徒歩 1分

(中央線立川駅、京王線高幡不動駅、小田急線・京王線多摩センター駅乗り換え)

【費用】参加費 500 円 (会員・学生は無料)

【定員】40 名

【申し込み・問い合わせ】

〒192-0393 八王子市東中野 742-1

中央大学経済学部新井洋一研究室

コンピュータを利用した英語研究の初心者、とりわけ英語のコンコーダンス作成ソフト WordSmith に関心のある方を対象にした基礎講習会です。参加者の方々には、実際にコンピュータを操作しながら、利用法を学んで頂きます。秋の大会時に案内文書を配布しましたので、もう既に 10 名を越える申し込みを頂いておりますが、定員に余裕がありますので、是非、多数の会員諸氏の参加を期待しております。会員以外の方でも興味をお持ちの方がいましたらお声をおかけ下さい。

東支部支部長 山崎俊次 (大東文化大学)

## 6. Japanese-English Bilingual Corpus CD-ROM について

中央大学での第 18 回大会時に、本学会会員の田中康仁先生 (兵庫大学) から日英パラレルコーパスの CD-ROM 約 40 枚を無料で希望する参加者に配布して頂きました。この CD-ROM には田中先生が北研二先生 (徳島大学工学部・非会員) との共同研究 “Multilingual Parallel Corpus of Major East Asian Countries” の一環として作成した日英パラレルコ

ーパスのテキストファイルと、英文の単語数で分類された同じコーパスの部分ファイルが 35 含まれております。サイズは英語の単語にして約 212,000 語ですが、色んな目的に役立ちそうです。コンコーダンスは付随しておりませんが、事務局のテストでは、英語の部分に関して WordSmith 等で検索が可能でした。田中先生のご厚意で、更に、ご希望の会員がいれば、配布頂けるとのことです。事務局あるいは田中先生宛てに直接ご連絡下さい。田中先生の e-Mail アドレスは以下の通りです。

## 7. 新入会員紹介

(個人の住所および電話番号は、オンライン版のニューズレターでは公開しておりません。郵送されるニューズレターをご覧ください。)

JAECs Newsletter No. 34 発行以降の新入会員の方は次の通りです (11 月 1 日現在、敬称略)

< 一般会員 >

小森 道彦 (大阪樟蔭女子大学)

E-mail:

志関 義昭 (昭和大学)

E-mail:

日木 満 (名古屋市立大学)

E-mail:

< 学生会員 >

小野 真嗣 (北海道大学大学院 S)

E-mail:

## 8. 名簿の訂正のお願い

会員名簿の記載内容に変更・誤りがございません。以下のようにご訂正下さい。

住所・電話番号・E-mail アドレスの変更

鈴木 英夫 E-mail:

住所・電話番号・所属の変更

柳 朋宏

住所・電話番号の変更

南出 康世

住所の誤り

大羽 良

所属・E-mail アドレスの変更

吉川 史子 科学技術振興事業団

E-mail:

所属の誤り・変更

高見 敏子 北海道大学

釣井 千恵 桃山学院大学 (非常勤講師)

富山 義弘 京都大学総合情報メディアセンター

電話番号の誤り

佐藤 弘明  
E-mail アドレスの変更・誤り  
赤野 一郎  
染谷 泰正  
堀井 祐介  
吉村 由佳

## 9. JAECS-ML について

ご承知のように、JAECS-ML を園田勝英先生（北海道大学）に立ち上げていただいて2年以上が過ぎました。ただ、この1年間のトラフィックを見ても30件程度しかありませんので、このMLが会員諸氏に有効に利用されているとは言えません。事務局としましては、将来的にはこの*News-letter*を初め、大会関連のお知らせ等をMLを通じて配信し、ペーパーレス化することを念頭においておりますが、現状ではその実現は相当先になるのではないかと懸念を抱いております。

MLが会員間で活用されていない最大の理由には、利用登録者の数が少ないことが考えられます。そこで、事務局では先の運営委員会にお諮りし、次のような手続きであらためて利用登録をして頂くことに致しました。まず、入会時にMLに参加しないと申し出のあった方を除いて、会員全員を登録した上で、ご確認を頂くためのメールをお送りします。この時点で、MLへの登録を希望しない会員からはその旨ご返事を頂き、登録を抹消することに致します。ご返事の無い場合にはML宛てのメールが全て配信されることとなります。

つきましては、現在 e-Mail アドレスを事務局にお届け頂いていない会員がございしますが、MLへの登録をご希望なさる場合には、至急お知らせ下さい。お知らせ頂いている場合にも、名簿で各自のアドレスをお確かめの上、誤りがございましたらお知らせ下さい。できれば年明けには、上記の手続きをとりたいたいと思っております。よろしく御協力下さい。

## 10. 事務局から

### 会費納入のお願い

2001年度会費（一般5,000円、学生4,000円）未納の方には郵便振替用紙を同封致しますのでお納め下さい。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

2000年度会費未納の方は、2001年度分と合わせてお納め下さい（振替用紙にその旨記しております）。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦下さい。2年続けて会費未納の場合、*JAECS Newsletter*等の送付を中止させていただきます。

住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添え下さい。

### その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案下さい。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書を紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですのでお寄せ下さい。

## FORUM

### ソフトウェアの紹介

名古屋学院大学  
鈴木重樹

E-mail:

ネット上で動く KWIC コンコーダンサ Internet-KWIC をこのたび公開することになりました。WEB 経由ですからインターネットが利用できるコンピュータがあれば、どこからでも KWIC コンコーダンスを見ることができます。またプログラムをダウンロードしてそれをサーバーに転送すれば、自分のテキストを KWIC 形式で世界に発信することもできます。日本語マニュアル付きですから、詳しくは下記 URL をご覧下さい。（ただし利用できるブラウザは Windows の Internet Explorer 5.5 以降のみです。）

<http://www.ngu.ac.jp/~suzuki/index.html>